

地震感知システムのご案内

1. 電気による火災原因

電気による火災は大きく分けて2つあります！

1.大地震のときに発生する『**通電火災**』

2.電気設備の経年劣化による『**老朽化火災**』

参考データ

『大規模地震時の電気火災の抑制に関する検討会』より

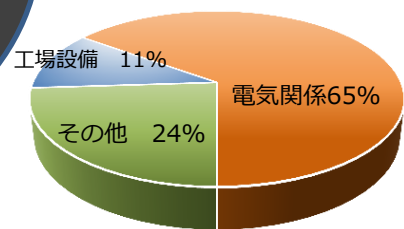
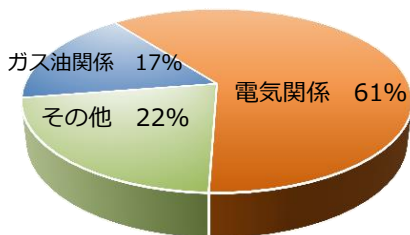
『通電火災』

大地震に伴う停電が、復旧したことで発生する火災のこと。お部屋内では冷蔵庫・TVが倒れ、コンセントが断線し、火災が発生致します。



災害火災『東日本大震災』

災害火災『阪神淡路大震災』



『老朽化火災』

設備が古くなり、老朽化することで、安全が保てなくなり、様々な原因を招き、火災が発生致します。



『トラッキング現象』

ホコリが空気中の水分を吸収することで、漏電し発火する火災のこと！電気火災の代表的原因のひとつです。

『地絡（漏電）火災』

配線の緩みなどによって、接触部が過熱し、発火する火災。経年劣化が要因のひとつです。

2. 通電火災

☑通電火災の原理



①地震発生



②避難



③電力会社停電



④電力復旧



⑤地震によって抜けかけたコンセント
故障した機器に通電し火災が発生！

☑大地震発生後、数日経過したあとに火災発生…？

実は、阪神淡路大震災でも東日本大震災でも、大地震発生から数日後に多数の火災が発生しております。原因としては、地震発生から数日後に電力会社の復電（復旧）。散乱した無人の部屋に電気が流れ、断線したコンセントなどから火花が散り、各地で火災が発生。この『通電火災』については、ニュースでも取り上げられ、内閣府・経済産業省・消防庁などが対策方法を検討し発表しております。



3. 老朽化火災

老朽化火災で注目すべき設備は、ご自宅の『ホーム分電盤』。

下記のような、ホーム分電盤は老朽化が進み、**耐用年数を超過**し、火災を招く恐れがあります。

※交換目安：15～20年。

交換のご経験のない方は、早期交換をお勧め致します。

※参考画像 『設置後25年以上経過した ホーム分電盤』



☑住宅火災件数（平成28年1月～6月）：6,155件

4. 電気火災対策

地震感知機能付き 『ホーム分電盤』への交換案内

『通電火災』を防止する！

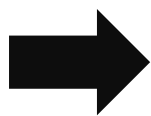
地震感知式ブレーカー付き

“大地震発生”自動でブレーカーOFF！
(震度5強以上)

《参考施工例①》



《参考施工例②》



『地震感知機能』

国が定めたガイドラインに沿って
製造された『通電火災』防止装置。
震度5強以上を検知し、
地震発生後、3分後に自動で
主となるブレーカーをOFF！

施工時間：約1時間29分程度

地震感知装置単体のみ取付も可能（要相談）